

防災活動報告

日頃は、消防活動にご協力頂き誠にありがとうございます。この度、安全で安心に暮らす事の出来る地域づくり、地域自主防災活動・防災意識の向上を目的として、防災推進委員会が発足致しました。

去る、七月十二日神戸市の阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」へ視察研修に行きました。

被災者の方から震災のお話を聞き大変驚きました。

地震が横揺れから縦揺れに変わるものすごさ、テレビや家具類が飛びように倒れ、屋根がくずれ、近隣の建物も全部倒壊する様子のすさまじさ。家の下敷きになっている人達を皆で助け避難所へ移動したが、避難場所・食糧・飲み水・トイレ等にも大変困られたこと等。

被災者の皆さんが助け合い、自助と共助が一番重要である。特に自治会の密接な連携と防災意識の高揚、訓練の必要性を訴えられました。

その後、震災前後の風景・商店街・高層ビル・高速道路の橋げたが、一瞬にして倒壊する場面・地震破壊のすさまじさを迫力ある大型映像と音響で体感しましたが、ただただ恐ろしさと怖さを感じ、足がすくむ思いをしました。

自治会でも防災活動・防災意識の啓発と訓練は是非必要です。現在防災マップづくりに取り組んでおります。

消防活動では、毎月第二日曜日午前七時から消防機械点検・放水訓練を実施しております。同時に、二号消火栓の放水訓練も実施していますので町民の皆様にも是非ご参加くださいます様宜しくお願い致します。

(西村 弥市)

金堂の歴史再発見



「那須与一と平景清」
ときは元暦二年(一一八五)二月十九日の夕刻、美女を乗せた平家方の一艘の小船が、竹竿の先に立てた扇を射てみよとばかりに、四国屋島の浜に漕ぎ寄せて来ました。

源義経の命で、これに応じ黒馬に跨った源氏方の青年が波に馬を進ませて、「南無八幡大菩薩」と神仏の加護を唱え、射損じれば自害の覚悟で鎧矢を放つと、見事に扇は空に舞

い上がり、源氏方の将兵から大喝采を受けました。この青年こそが、那須与一です。

源氏方では、この好機を逃さず攻撃にりましたが、「負けではならじ」とばかりに平家方の青年が船から浜に上がり、源氏の武將の兜を奪い取り、大音声で「遠からん者は音にも聞け、近くは寄つて目にも見よ、我こそは悪七兵衛景清なるぞ」と、名乗りを上げ平家方の氣勢を揚げました。この悪七兵衛が、平景清(たいらのかげきよ)です。

金堂には、この屋島戦いの源平の両雄にまつわる伝承があります。金堂集落の真真中に聳える、大伽藍の弘誓寺の開基は愚咄(ぐとつ)坊とされますが、この愚咄は那須与一の嫡孫に当たる那須資長が本願寺覚如上人の直弟子として出家した人です。

一方、平景清は、壇ノ浦の平家敗戦後、鎌倉幕府に降つ

たとも伊賀で平知盛の子知忠を擁して挙兵したとも言われています。歌舞伎や浄瑠璃などでは、京都の清水寺に眼の回復を祈願するため参詣し、その時通行したのが金堂の東端を北東から南西方向に伸びる景清道と伝えられています。

金堂のまちなみに、奇しくも源平合戦の両雄のエピソードが八百数十年を経て語り継がれているのです。

(林 純)

編集後記

町外を含め百二十八名の方々に入会いただき、実質二年目の「NPO法人金堂町並み保存会」がスタートしました。

今秋には、活動の拠点となる『まちなみ保存交流館』が部分利用可能な状態になる予定で、会の活動も益々活性化します。

今後も会の活動に関し、この広報誌や当会ホームページを通じ、逐次お知らせしてまいります。

(城 誠人)

重要伝統的建造物群保存地区 選定 節目のときを迎えて

第8号
平成20年 7月31日発行
発行者: 特定非営利活動法人
金堂まちなみ保存会
理事長 西村 實
普及啓発委員会



去る五月二十五日に開催されました第二回通常総会ならびに理事会において選任を受け、引き続き理事長の大役をお引き受けすることになりました。

課題は山積しておりますが、本年は重点目標である拠点整備の最終年です。本会の正念場の年と捉えています。

そのため、理事を増員し、

常務理事を設置いたしました。四委員会体制と併せ、会の組織強化を図ります。

また本年は、重要伝統的建造物群保存地区に選定されて満十年の節目の年です。これを機に記念誌(仮称)保存会活動の軌跡、発刊を事業として計画しております。

今一度原点に立ち返り、「花も実も根ありてこそ」の根の部分に力をいれ、誰でも気軽に参加いただける場所の提供を目指します。

今年、昨年よりも多くの方の入会を賜りました。会員の皆様のご理解とご支援の賜物と感じております。

多くの皆様の英知を結集することこそ、素晴らしい五箇荘金堂町のまちづくりの原動力であると確信しています。

(理事長 西村 實)

第二回 通常総会報告



第二回通常総会が五月二十五日、金堂町自治会館で開催され、第一号議案「平成十九年度事業報告および決算報告の承認」、第二号議案「平成二十年度事業計画および収支予算の承認」、第三号議案「役員改選」の三件が上程された。

第一号議案は、法人格取得後初の一年間を通じた実績報告。活動運営資金が、多くの方のご理解とご協力により予想以上であった、「ぶらりまち

かど美術館・博物館が好天に恵まれ大盛況であった、年初予定していなかったホームページの開設が市の補助金制度の採択を受け実施できた、等の報告がなされた。

併せて、西村久一郎監事より平成十九年度の監査報告が行われた。

第二号議案では、前年を大幅に上回る予算を組み、会の更なる飛躍を目指している。

第三号議案の役員改選は次の通り。

理事 西村實、山脇隆、小杉富男、山脇勝、野村勝彦、西村勉、西村正義、外村市郎、山村文志郎、金堂勝郎、城誠人、福地真一(以上十二名は留任、磯部博、石田佳彦、辻勝次(以上三名は新任)

監事 西村久一郎氏(留任)、山村伸氏(新任)

以上三件とも、原案通り承認可決された。

(事務局長 辻 勝次)